



指扇中だより



～WE LOVE SASHIOGI!～

〒331-0078 さいたま市西区西大宮 3-31-1 TEL 048(624)6234 FAX 048(624)2479

『青い珊瑚礁』

校長 おおこうちのりかず 大河内 範一



20年ほど前、当時の職場仲間と「スキューバダイビング」のライセンスを取得した。学科講習、プール実習、海洋実習などを順番にクリアしていけば、ライセンスを手に入れることができる。その気さえあれば、誰でも海の中で人魚のように華麗に泳ぎ回れるのである。

海洋実習は晩冬の伊豆の海が会場だった。人生初めての水深のある海の中、どんな世界が待っているのだろうかと期待に胸を膨らませて潜ってみたものの、そこで見たものは、茶色く濁った視界の悪い海水、水中を泳ぐ極めて地味な配色の小魚やイカの赤ちゃん……。自分が思い描いていた世界からは、ほど遠かった。

とはいえ、一度だけ本場の海で潜ったことがある。セブ島の海はまさしく映像で見た世界だった。どこまでも透き通る青い海、形や色彩が美しい珊瑚礁、映画の「ニモ」で登場するカクレクマノミなどの色とりどりの熱帯魚。そこは神秘的で風光明媚な楽園であった。あのシチュエーションで、人魚姫のアリエルが隣に来て一緒に泳いでくれたとしたら、きっと恋に落ちていると自信をもって言える。

スキューバが自分に合わないと感じた出来事があった。水圧の関係からか、海に潜った後の数日間、耳がよく聴こえなくなってしまったのである。ずっと「ほわ～ん、ほわ～ん」という音が聴こえ続け、日常生活に支障が出てしまうので、それ以来、なんとなくスキューバの世界から遠のいてしまった。

SDGs（持続可能な開発目標）の14番目は『海の豊かさを守ろう』であるが、「マイクロプラスチック問題」は知っているだろうか。年間1000万トンを超えるプラスチックごみが海洋に流入し続けていると言われており、紫外線や風雨にさらされて劣化し、5ミリ以下の粒子状になったものがマイクロプラスチックである。海流に乗って世界中の海に拡散し、しかも分解されないため、海洋生物のみならず人体にも悪影響をもたらすことが懸念されている。海洋汚染問題は、もう待ったなしで取り組んでいかないと手遅れになってしまうところまで来ている。海の生態系や美しさを守るために、我々はしっかり関心をもち、自分たちに何ができるのかを真剣に考えなければならない。

今では、スキューバのルールから器材の名称や扱い方まですっかり忘れ、私の「人魚人生」は思い出の彼方に行ってしまったが、かつて海のよさを味わったダイバーの端くれとして、美しい自然を失うわけにはいかないと強く思っている。